

シラバス

科目名	English Communication II	単位数	3単位	学年・学科	3学年全学科	展開	必修・選択	
教科書名	Power On English Communication II (TOKYO SHOSEKI)	副教材	総合英語 Evergreen (いづな書店) 英単語ターゲット1200 (旺文社) Hyper Listening Pre-intermediate 4th Edition (桐原書店)					
科目の目標	外国語のコミュニケーションにおける見方や考え方を学ぶと同時に、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーション能力や資質の育成を目指す。							
学習内容と進め方	教科書や副教材、ハンドアウトを利用し、5領域を統合的に伸ばすような様々な学習活動を取り入れる。							
学習の留意点	ペアワークやグループワークを多く取り入れコミュニケーションを図る時間を確保する。							
月	単元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			評価の基準	評価方法等
				1	2	3		
4	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	17	・助動詞＋受け身 SVC (分詞・if節)	○		○	・ブレイルノイエの利点や可能性、活用方法について考察することができる。	単語テスト (通年)
5	Lesson 6 New Banknotes	17	・ It is said that 形式目的語 助動詞＋have＋過去分詞	○		○	・お札とキャッシュレス社会についての英文を理解できる。	ノート・ハンドアウト提出 (通年)
6	Lesson 7 Some Secrets about Colors	17	・関係代名詞 同格を表す that 前置詞＋関係代名詞	○	○		・色の効果についての英文を読み、話し合うことができる。	パフォーマンステスト① 前期考査
7	Lesson 8 Powdered Natto solves a Global Water Problem	18	・関係副詞 強調構文 強調の助動詞 to have 過去分詞	○		○	・納豆パウダーの誕生秘話や、発展途上国の人々に与えている影響について読み取ることができる。	パフォーマンステスト②
8	Lesson 9 Flying after Her Dreams	18	・譲歩を表す副詞節 no matter how / where / when 仮定法過去完了・分詞構文	○	○		・ベシー・コールマンの経歴や活躍から昔のアメリカの女性の就労問題や人種問題について考察できる。 ・ロボットと仕事についての英文を読み理解することができる。	パフォーマンステスト③ 後期考査
9	Lesson 10 To Work or Not to Work ? :Humans and Robots	18	・過去完了進行形 未来完了形 be to 不定詞 insist that S V	○		○		パフォーマンステスト④ 学年末考査
10	Lesson 11 To Work or Not to Work ? :Humans and Robots	18	・過去完了進行形 未来完了形 be to 不定詞 insist that S V	○		○		パフォーマンステスト④ 学年末考査
11	Lesson 12 To Work or Not to Work ? :Humans and Robots	18	・過去完了進行形 未来完了形 be to 不定詞 insist that S V	○		○		パフォーマンステスト④ 学年末考査
12	Lesson 13 To Work or Not to Work ? :Humans and Robots	18	・過去完了進行形 未来完了形 be to 不定詞 insist that S V	○		○		パフォーマンステスト④ 学年末考査
1	家庭学習期間							
2	家庭学習期間							
3	家庭学習期間							
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト・小テスト、提出物、授業への参加態度等を総合して判断する。							
評価の観点	観点	趣 旨						
	1知識/技能	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。						
	2思考/判断/表現	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。						
3主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションⅡで学ぶ内容において、背景にある文化に対する理解を深め、主体的に自立的に英語学習に取り組もうとしている。							
評価基準	1知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。						
	2思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができるが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。						
	3主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語学習に取り組んでいる。 B 主体的、自律的に英語学習に取り組もうとしている。 C 主体的、自律的に英語学習に取り組む意欲が不十分である。						